

会 議 録

会議の名称	令和6年度所沢市自立支援協議会 第1回定例会
開催日時	令和6年5月21日（火）14時00分～16時00分
開催場所	こどもと福祉の未来館 多目的室3・4号室
出席者の氏名	会 長 坪井 弘直 委 員 本坂 朗敬、竹本 耕造、水村 慎也、田邊 純子、 豊田 淳一、田島 誠、大門 竜司、吉居 知咲、 小野 友佳、小石川 良子、田中 美穂、 前田 幸子、宮武 奈津、小野寺 祐樹、 伊東 真吾、安田 美代子、青木 咲奈枝、 鈴木 恭子、内海 文江、小内 正秋、松本 弘、 高橋 清子、鈴木 浩司
欠席者の氏名	都 弓美
議事	(1)自立支援協議会の協議内容及び部会の編成について (2) 令和5年度各部会活動報告及び令和6年度各部会活動計画について (3) 令和5年度所沢市相談支援事業委託事業所の事業報告について
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・会議次第 ・所沢市自立支援協議会委員名簿 ・自立支援協議会の協議とは ・所沢市自立支援協議会運営要綱 ・令和5年度各部会活動報告書及び令和6年度各部会活動計画書 ・令和5年度相談支援事業業務委託事業報告書
担当部課名	障害福祉課 一色課長、吉里副主幹、岩崎主査、新井主査、 松尾主任、奥住主任、 こども福祉課 加賀谷課長、藤澤副主幹、宮武主査 保健センター健康管理課 田中課長、小野寺主幹、千葉副主幹 (事務局) 福祉部障害福祉課 04-2998-9116
発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	1 開会
	・課長あいさつ
委員	・新委員あいさつ
	・会長の選出（人事異動により全会長が退任のため）
委員・事務局（市）	委員より会長に坪井氏が推薦され、全会一致で承認される。

会 長	・あいさつ
事務局（市）	・配布資料の確認 ・所沢市自立支援協議会運営要綱の規定により、会議の議事進行を坪井会長に委任
会 長	・傍聴希望者数の確認。（傍聴希望者 1 名）
	2 議事
	(1) 自立支援協議会の協議内容及び部会の編成について
事務局（市）	・自立支援協議会の協議内容及び部会の編成について
事務局（市）	・資料のとおり説明
	・質疑応答・意見交換
委 員	・全会一致で承認される
	休憩
	(2) 令和 5 年度各部会活動報告及び令和 6 年度各部会活動計画について
委 員 （基幹相談支援センター）	<p>相談支援部会令和 5 年度活動報告(内容は資料のとおり)</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員同士のネットワークを使い人材育成を実施。 ・前年度は毎月、市内全事業所を集め会議を実施していたが参加者の負担軽減のため、全事業所を集め実施する会を年 2 回とした。 ・市内事業者を 3 グループに分け、グループごとに困難事例について検討を行った。 ・「相談しゃべり場」という、1 人で事業を運営している職員が気軽に相談できる機会を設定している。 ・グループスーパービジョンという、支援者に焦点をあて支援者同士でスーパービジョンをしていく取り組みも実施している。 ・所沢市独自の取組として、相談支援従事者初任者研修を修了して間もない新人職員向けにフォローアップ研修を実施。行政職員も参加し官民一体の研修となった。 ・事業所間で顔の見えるネットワークを構築、困り事を抱え込まずに相談できる体制づくりができています。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討を実施する中で、地域課題の抽出を行って行きたいと考えていたが課題抽出には至らなかった。 <p>相談支援部会令和 6 年度活動計画(内容は資料のとおり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討のみ実施するのではなく、各グループに特化した地域課題について協議できるよう進めていく。

<p>委員 (基幹相談支援センター)</p>	<p>研修部会令和5年度活動報告(内容は資料のとおり)</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内福祉サービス事業所の質向上を目的に研修を実施。 ・虐待防止について研修動画を作成。市内事業所に配信することにより役立ててもらっている。 ・市内福祉サービス事業所より推薦頂いた方で部会内に研修企画チームを設置。 ・現場の現状や人材育成についての困りごとを反映させニーズに合った研修ができるよう取り組んだ。 ・下半期に実施した障害福祉サービス事業所交流研修は約80名参加。 ・サービスの種類、対象種別の垣根を超え実施。他サービスを知るよい機会となったと好評いただいた。 <p>研修部会令和6年度活動計画(内容は資料のとおり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容について、何が必要な内容か現場職員の声を吸い上げながら企画していく。 ・具体的な研修内容については協議中のため、次の定例会にて示したい。
<p>委員 (さぼっと)</p>	<p>こども部会令和5年度活動報告(内容は資料のとおり)</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージや児の特性により知的グループ、情緒グループと分かれ各々テーマを設定し話し合いを実施。 ・テーマの対象となる児のイメージを参加者がしやすくなり、課題の焦点化ができた。 ・知的グループでは、切れ目ない支援のために関係機関での引継ぎの重要性を認識した。 ・所沢支援学校での就学前相談の状況を知る良い機会となった。 ・関係機関との情報共有ツールとして、埼玉県ではサポート手帳があるが活用しきれていないことがわかった。 ・簡易的なツールがあるとスムーズな引継ぎができると考えている。 ・情緒グループでは事例を元に必要な支援、それぞれの関係機関の役割や必要な資源について確認した。 ・成長した後に、その場で対応していくことは障害が重度化することもあり困難であるため、幼少期より対応策を講じていく必要性を確認した。 ・家庭全体を考え支援していく必要がある。

	<p>こども部会令和6年度活動計画(内容は資料のとおり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関が情報共有するためのツール作成のため、部会とは別に作業グループを発足する。 ・幼少期からの予防策について、家族支援的観点、医学・保健的観点、学校・地域的観点から専門家より講義等頂き対応について理解と共有を行う。 ・放課後等デイサービス事業所見学会を実施予定。
<p>委員 (どんぐり)</p>	<p>こころ部会令和5年度活動報告(内容は資料のとおり)</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に取り組んだ。 ・高齢者支援課、地域包括支援センター、医療機関より認知症初期対策チーム職員が各々の機能や現状、地域との連携課題について報告頂き意見交換を実施。 ・こども支援課よりこどもを取り巻く状況、制度、機関などを講義頂いた。 ・「ひとり暮らしを地域で支える」「平時からの関わりの大切さ」をテーマに講義を受け、グループ協議を実施。 ・様々な講義や報告について都度、協議することにより議論を深めることができ、参加した地域の事業所間で一定の共通認識を持つことができた。 <p>こころ部会令和6年度活動計画(内容は資料のとおり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代ごとの支援、連携強化について検討。 ・家族支援に視点を向け、多問題や生活困窮などの事例を元に関わり方を検討。 ・福祉サービスについて、地域の方が相談しやすくするにはどのような方法があるのか、児童から大人のサービスに移行する際、福祉離れにならないための方法について検討。
<p>委員 (こみゅーと)</p>	<p>重症心身障害部会令和5年度活動報告(内容は資料のとおり)</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度より発足した部会。 ・対象者像を「重度の知的障害と重度の身体障害を併せ持つ方」と定義。 ・重度の知的障害と医療的ケアはあるが身体障害がない方、重度の身体障害と医療的ケアはあるが知的障害は無い方は対象としないことにした。 ・重症心身障害の方が利用している生活介護事業所の見学とそこで支援する職員から話を聞く機会を設けた。 ・日頃の生活等を聞きながら知識を深めることができ、対象者

	<p>像について参加者が共有することができた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重症心身障害の方の総数が少なく対応できる施設が少なく、知識や経験があり対応できる職員を確保することが難しい。 ・サービスによっては利用されず空いている。 ・様々なサービスを利用しているが、個人を取り巻く様々な事業所間の関係が希薄。 ・利用できるサービス等の情報を集約できていない。 <p>重症心身障害部会令和6年度活動計画(内容は資料のとおり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス提供事業所間が地域の中で顔の見えるネットワークづくり構築を目指す。 ・補助や制度について確認を行う。 ・施設見学を実施。 ・市内事業所の重症心身障害の方の受け入れ人数等、調査を実施する。
	質疑応答・意見交換
会 長	・新委員2名よりご意見いただきたい。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・こども部会に参加させていただく予定。 <p>学校の中にも特別支援学級があり、知的学級や自閉・情緒学級とわかれている。こども部会も知的と情緒グループに分かれており、考えやすいと感じた。福祉の方に話しを聞く機会が少ないため、持って帰り話を広めたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療育手帳認定手続きの際に、お子さんと話をするが、学校生活や行政との関わりはわかっていない。地域とのつながりや現場で何を実施しているのか話を聞いていきたいと考えている。
	休憩
	(3) 令和5年度相談支援事業の報告について
委 員 (基幹相談支援センター)	<p>(件数・内容は資料のとおり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中でも中核的な相談支援事業所の為、様々な経路から相談が入る。 ・近年はお子さんに関わる相談が増加。 ・通常の小中学校教諭より直接相談が入り、支援に介入。療育や医療へつながるケースもいる。 ・子育てや介護世代など、世代を超え精神保健に課題のあるケースが多い。 ・市内相談支援体制整備を実施。課題は多いがすぐに解決できないものが多い。令和6年度報酬改定等により、基幹相談支援センターが相談支援体制の強化に向けて取り組んでいくこと

	<p>が一層求められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科病院から地域移行についての相談が増加。様々な医療機関と関わるが多い。 ・自立支援協議会とは別に、地域生活支援拠点会議に参加。地域移行を進めるため、体験の機会として所沢市立ゆきわり草の利用をとおり地域での暮らしを体験できるようにしている。 ・自宅から1人暮らし、グループホームから1人暮らし等様々な事例がある。体験の機会をとおり、障害当事者の意思決定支援を支えていく必要がある。 ・虐待件数は増加傾向。内訳は精神科に通院歴等がある方が家庭内トラブルを起こし警察が介入し報告を受けるケースが多い。 ・コアメンバー会議を実施、介入の必要性を行政を含め確認している。 ・施設従事者による虐待も増加。虐待内容自体は軽度であるが、支援方法がわからず、不適切な支援を行うことが虐待へ繋がっている。 ・福祉サービス提供事業所の質の向上を地域の中で取り組んでいく必要がある。 ・緊急相談窓口を設置しており、家族が亡くなり1人になってしまったケース等、緊急対応することが年に数回ある。 ・緊急を緊急としない予防的支援が重要であり、行政のケースワーカーや相談支援事業所が協力し実施する必要性を感じている。 ・支援につなげたくてもつながっていないケースもいる。 ・単身の障害者の見守りについて、インフォーマルな視点からの地域との関わりも必要と考えている。
<p>委員 (さぼっと)</p>	<p>(件数・内容は資料のとおり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の相談件数は昨年度より増加。電話での相談が増加している。 ・他機関や相談者の知り合いからの紹介、ホームページ等をみて新規相談につながるが多い。 ・他職種間と連携する中で、役割分担を明確にし方向性を示していく必要があるが情報共有が難しいことがある。 ・安定して過ごせる生活の場が限られており、受け止め先がないケースへの対応が課題。 ・ピアカウンセリングを今年度より実施。相談者から仕事を意識するような発言が出るようになり、意欲向上につながっている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・生活介護事業所連絡会議を開催。 ・利用者が高齢化、重度化して行く中で意思決定支援や個別支援へどのように取り組んでいるのか、工夫等を話し合った。 ・職員のスキル不足や利用者の高齢化に伴う意欲低下等が課題として挙げた。 ・他事業所のことを知ることで、意志決定支援や個別支援について振り返るよいきっかけとなった。 ・障害児通所支援事業所連絡会議を開催。 ・療育的な支援、児を支援する際に気をつけていることを話し合った。 ・あいさつや身近自立を意識し支援を実施。また、自己決定ができるように気をつけ対応していた。
<p>委員 (こみゅーと)</p>	<p>(件数・内容は資料のとおり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と相談件数に大きな変動はない。 ・相談内容は多岐に渡っている。ヘルパー事業所が閉所したことにより利用調整依頼が増えた。 ・相談支援事業所以外からの依頼も増加。 ・生活の立て直しやグループホーム探し、すでに関わっている支援機関がある方からの相談もあった。 ・本人のキーパーソンとなる方が、日本人でないケースも出てきており、バックボーンの文化の違いがあるため家庭で大事にしていることを探りながら支援を実施。 ・福祉サービスの利用が無く長期間在宅の方、本人が不安定のためサービス利用できない方については定期的に訪問し関係づくりを行なっている。 ・本人だけでなく、家族を含め対応が必要となるケースが下半期は目立った。 ・子の支援で入ったが、その母の支援が必要であったケース。 ・本人を取り巻く関係機関の支援への考え方の違いにより、本人や家族が翻弄されたケース。 ・担当ケースワーカーも含め担当者会議を実施、それぞれの見解の整理を行った。 ・今までの福祉サービス提供事業所とは考え方が違う事業所があり連絡調整に苦慮することがある。 ・ピアカウンセリングは継続して実施。 ・所沢市こどもと福祉の未来館のギャラリーにて実施しているプラットフォームは今年度、5事業所が参加。 ・下半期より、参加事業所が主体で運営する形に変更。こみゅーとは全体集約を実施。 ・年間で1,742,750円売上があり、工賃向上に寄与できた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会の広報誌に取り上げて頂き、お問い合わせが入ることもあり、ぷらっとマーケットの活動が浸透しているように感じる。 ・就労継続支援事業所連絡会議を開催。主に就労継続支援 B 型事業所が参加し、支援における困りごとについて意見交換を実施。
委員 (どんぐり)	<p>(件数・内容は資料のとおり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者を中心とした利用者が多い。 ・利用者数は横ばいだが、相談件数は増加傾向。 ・福祉サービスで補完できないニーズの方が多くいる。 ・自宅で暮らしていたが、将来を見据えグループホームへ入った途端、生活能力等の問題が噴出したケース。 ・支給決定は出ているがサービスの利用がなく、本人や家族からサービス外の要望が多いケース。 ・他機関との情報共有できても、役割分担や連携しての支援に至らないケース。 ・連携する前に問題の整理をしなければならないケース。 ・訪問看護につないだが服薬管理できない。金銭管理の手が入ったが、次々にクレジットカードを作成し借金を増やしてしまうなど、それぞれの支援者が情報共有しながら、今より状況が悪くならないよう対応している。 ・地域に渡りニーズに応じたサービスや相談つなげる窓口としての役割を求められた。 ・長く就労している方やクローズで就労している方は就労支援機関との関わりが無くなっていく、生活面について支援する相談が増えた。 ・本人も親も高齢化しており、関係づくりが難しく多様なニーズに対して、他事業者との共同や併設している地域活動支援センターの機能との関わり合い方が課題。 ・医療機関との連携は、タイミングよく相談することが課題。 ・地域活動支援センター連絡会議を開催。 ・市内全 7 事業所が参加。事業所間のつながりがほとんどなかったため、各事業所についてと課題。10 年後の困りごとや問題になりそうなことを話し合った。 ・今後も情報共有していきたい。
	質疑応答・意見交換
委員	<p>2 点質問がある。</p> <p>①基幹相談支援センターの市内相談支援体制の整備について、これまでとは違うアプローチをしていく様子であったがどのようなことを検討しているのか。</p>

	②緊急短期入所の件数について伺いたい。
委員	<p>①について回答する。</p> <p>今年度の報酬改定により国の相談支援事業に関する方針が示された。</p> <p>市内相談支援事業所数は増加しているが、相談支援専門員が1人で運営しており、困った時に相談できない。こなせる件数が限られてしまう。また、報酬の算定は多くの相談支援専門員を配置した事業所へ加算がつく形となっており、経営的にも脆弱である。</p> <p>国としては、なるべく相談員を配置し、盤石な相談体制をとるよう促す方針であるが、経営的課題により人を増やすことが各事業所では難しいのが現状である。</p> <p>複数の事業所が協働し運営を行うことができれば、相談支援専門員を複数配置することができ、体制整備につながる可能性を考えている。</p> <p>すぐに取り掛かることは難しいため、今年度よりニーズや所沢市で実施した場合の調査、研究を行っていく。</p> <p>特定相談支援事業所の中で経験が長い方同士が提携し合うことにより、新たな地域生活支援拠点になることも可能であると考えている。</p> <p>②緊急短期入所へ至ったケースは4件であった。</p>
	事務局より連絡事項
事務局（市）	・次回の定例会は10月頃の開催を予定している。詳細については決まり次第改めて通知する。
会長	本日の議事を終了とする。
	3 閉会
副会長	副会長あいさつ